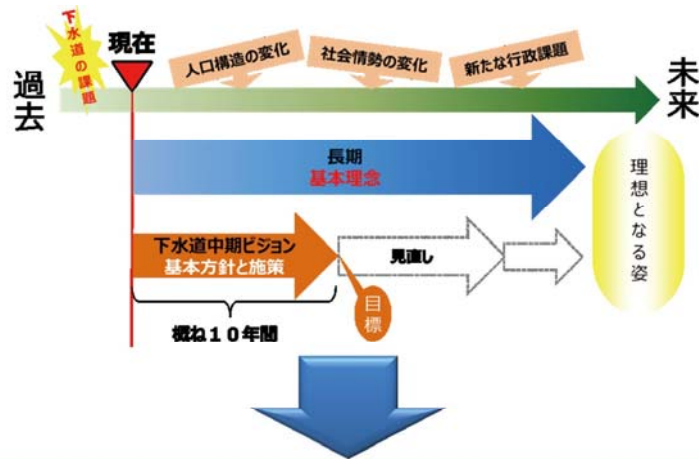


第4章 下水道中期ビジョンの体系

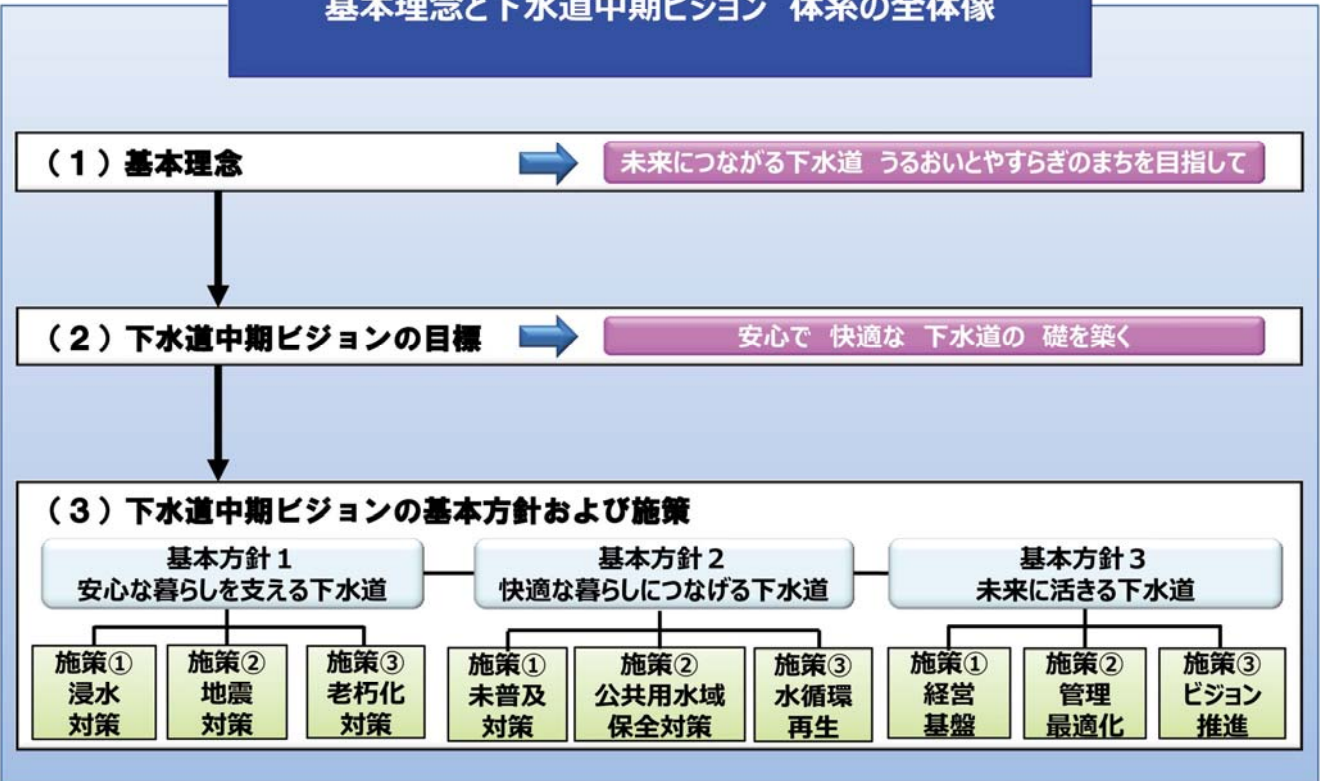
4-1 体系の全体像

下水道中期ビジョンの策定にあたって、まず、長期的な視点から、理想的な本市の下水道の姿に向けた基本理念を定めました。

そして、下水道中期ビジョンでは、基本理念にたった当面の取り組みとして、概ね10年間の目標を掲げ、目標を具現化するための柱として3つの基本方針と、目標を達成するための9つの施策を設定しました。



基本理念と下水道中期ビジョン 体系の全体像



4-2 下水道中期ビジョンの計画期間

本ビジョンの計画期間：平成26年度～平成37年度 ……………

本市の最上位計画である「市川市総合計画 I & Iプラン21」と整合を図り、計画期間は平成26年度（2014年度）から平成37年度（2025年度）までの12年間としました。

4-3 市川市の下水道の基本理念

未来につながる下水道 うるおいとやすらぎのまちを目指して ……………

本市は、昭和30年代後半の高度経済成長期とともに住宅都市として発展してきましたが、今、時代の転機を越えて都市の成熟期を迎えています。生活を支える都市基盤は、このような社会情勢を見据えつつ、未来につなぐための確実なマネジメントを進めていく必要があります。

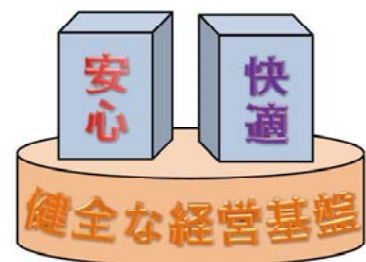
そこで、本市下水道が、いつまでも安心して快適な私たちの暮らしを支える重要な静脈であり続けるため、持続可能な経営を進めていきます。そして、市川という名のとおり江戸川をはじめとする多くの水辺に恵まれた本市の魅力を高めるため、生命の源である水環境が良好に保たれ水への親しみを通じた「うるおいとやすらぎ」のあるまちを目指します。

4-4 下水道中期ビジョンの目標

安心で 快適な 下水道の 礎を築く ……………

下水道は、「公衆衛生」「浸水防除」「水質保全」という機能を有しており、私たちの安心して快適な生活を支える重要な役目を担っています。しかし、少子高齢社会や都市基盤の老朽化の進展といった社会情勢を鑑みると、下水道に係る様々な取り組みは、段階的に着実に進めていく必要があります。

そこで、本ビジョンでは、基本理念の具現化に向けた概ね10年間の目標として、今後起こり得る様々な行政課題も踏まえつつ、いかなる状況変化にも対応できるよう、下水道経営の礎を築くことを目指します。



4-5 下水道中期ビジョンの基本方針および施策

基本方針 1 安心な暮らしを支える下水道

近年、首都直下地震の恐れだけでなく、老朽化する下水道施設、都市型水害や豪雨の頻発など、私たちの生活は様々な脅威におびやかされています。私たちが安心して暮せる生活環境を確保するため、暮らしの静脈である下水道施設を強固にする必要があります。そこで、施設整備だけではなくソフト対策など総合的な取り組みにより、安心な暮らしを確保します。

【施策】

① 浸水対策	② 地震対策	③ 老朽化対策
浸水被害の軽減を図るため、総合的な対策を推進する	いかなる時も下水道機能を確保するため、地震対策を推進する	下水道機能の確実性を保つため、老朽化への対策を講じる

基本方針 2 快適な暮らしにつなげる下水道

地球上で循環する「水」は生命の源であり、私たちに潤いや安らぎのある快適な暮らしを与えてくれます。そこで、絶え間なく排出される生活排水を確実に受け取り、そして再生することで自然界の水循環系へ還元するため、下水道整備に限らず多様な手法で公共用水域の水質保全に努めていきます。

【施策】

① 下水道の未普及対策	② 総合的な公共用水域保全対策	③ 水循環再生
効果的・効率的な下水道整備を推進する	総合的な汚水処理方式により公共用水域の水質を保全する	地下水の涵養等により、健全な水循環を育む

基本方針 3 未来に生きる下水道

社会情勢の変化や様々な行政課題が山積する中であっても、下水道は一瞬でも止まらず継続しなければなりません。そこで、ライフサイクルコストを考慮した最適な管理を進めるとともに、未来へつなげる下水道のため、想定される環境変化にも対応できる下水道経営の礎を築いていきます。さらに、下水道中期ビジョンを着実に推進するための体制を構築していきます。

【施策】

① 経営基盤の構築	② 管理の最適化	③ 効率的なビジョンの進捗管理
持続可能な下水道経営の基盤（財政・体制）を確立する	健全で効率的な、維持管理の最適化を目指す	円滑な下水道経営のため、情報発信や進捗管理を行う